

職業技術学校とその教育内容

森 下 一 期

今回訪問した職業技術学校は次の三校である。各学校では創立、定員、養成職種など簡単に説明された。

① 都市職業技術学校№ 31

1967年創立

基地企業¹⁾ ダル・トランス・ストロイ
(ДАЛ. ТРАНС. СТРОЙ) 極東運輸建設
(交通機関の橋などを建設する)

2年制、1学年210~240人

計450名

塗装工(建築)；指物師(建築)、大工；組立工、コンクリート工；煉瓦積工、鉄鋼構造及び鉄筋コンクリート構造組立の組立工；左官、外装工－タイル工；木材加工の工作機械工。²⁾



写真1 「照明及照明網の電気組立工」の実習

② 都市中等職業技術学校№ 20

1946年創立

基地企業 ダル・シェフ・モンタージュ
(極東における総合据付を行う)

3年制 1学年210人位

計550名

一般組立作業及び一般的機能の設備に関する仕上－組立工。

③ 都市中等職業技術学校№ 7

1952年創立

8年制卒3ヶ年

10年制卒1ヶ年35名 } 計610名
2ヶ年60名 }

照明及び照明網の電気組立工、動力網及び電気設備の組立工；ラジオテレビジョン器具のサービスと修理に関する無線機械技術者。

今回も非常に手厚い歓迎を受けた。特に、29日の第31職業技術学校(以後第31ПТУと呼ぶ)では、玄関に入る早々、民族衣裳で着かざった女生徒から、立派に焼き上げたパンと塩の贈呈をうけた。これは最高の歓迎の気持をあらわしたものであると聞き一同非常に感動したものである。

その最初の訪問の際に、職業技術学校校長会会長ドルギフさんから職業技術学校全体の説明をうけた。その上で第31番ПТУ校長からそこでの養成職種や教育の特徴などを話していただいた。30日の中等20番ПТУ、中等7番ПТУ訪問の時はそれぞれの校長からの説明であった。

それ等をそのまま紹介するには内容的に重なりもあるので、整理をして紹介することとした。

今回の職業技術学校(ПТУ)訪問で私達の关心をひき問題意識をかりたてたのは、職業技術学校が具体的にどのような学校かということである。第1回視察の折に裁縫工養成の中等ПТУを訪問し、それに関しては詳しい報告がなされている(『技術教育研究』18号 田中喜美)。今回、中等教育資格の出な

い職業技術学校(№31 ПТУ)も見学でき、更に10年制卒業者の進む技術学校(以後「ТУ」と記す)についても話題として出てきたので、職業技術教育の全体像を知りたいと思ったしだいである。幸い帰国後、ソ連邦の職業技術教育の歴史を極った本³⁾が手に入ったので、それも参考しながら職業技術学校の構成と内容に焦点を合わせて見ていくことしたい。

ソビエトにおける熟練(有資格)労働者の養成は10月社会主義大革命直後から組織的に行われている。工場学校、労働予備制度の中の工手学校、鉄道学校、工場学校等を経て、1958年末の法律『学校と生活との結び付きの強化とソ連邦の国民教育制度のいっそうの発展に関する法律』によって現在の職業技術学校が成立した。第十三条、第十四条に次のように定められている。

第十三条 8年制学校修了後生産に赴く青年に対する職業・技術教育を行うために、都市および農村職業・技術学校を設置する。
(二項略)

第十四条 労働予備局所管の工場学校、職業学校、鉄道学校、鉱山学校、建設学校、農業機械化学校および国民経済会議とその下部機関所管の職業技術学校、工場労働訓練学校、その他の職業学校を修業年限1~3年の全日制あるいは夜間制の都市職業・技術学校修業年限1~2年の農村職業・技術学校に改める。
(二項略)

そして、職業技術の教育施設と生徒定員は次のように拡充されていった。
⁵⁾

| | | |
|-------|--------|-----------|
| 1941年 | 1,551校 | 602,000人 |
| 1946年 | 2,488 | 603,000 |
| 1951年 | 2,593 | 520,000 |
| 1956年 | 3,145 | 755,000 |
| 1961年 | 3,684 | 1,064,000 |
| 1966年 | 4,319 | 1,599,000 |
| 1971年 | 5,351 | 2,380,000 |

| | | |
|-------|--------|------------|
| 1976年 | 6,272校 | 3,081,000人 |
| 1977年 | 6,457 | 3,234,000 |
| 1978年 | 6,661 | 3,359,000 |
| 1979年 | 6,892 | 3,503,000 |
| 1980年 | 7,072 | 3,617,000 |

しかしこれ等はただ量的に拡大したのではなく、既にふれたように中等普通教育の義務制へのとり組み、科学技術の進歩への対応などによりいくつかのタイプの職業技術教育施設が生み出され整理されていく過程である。その中でも中等職業技術学校の成立と拡大は、一般教育と職業技術教育システムの統合をめざし、中等普通教育の義務制を可能とする極めて重要なものである。

〔中等職業技術学校〕は60年代中頃から実験的に試行され、ソ連邦共産党第23回大会(1966年)の中等普通教育の義務化の方針により具体化の道を歩み出した。1969年4月2日のソ連邦共産党中央委員会及びソ連邦閣僚会議の決定『職業教育施設における有資格労働者の養成の一層の改善の方策について』によって、中等教育も行う修業3~4年の中等職業教育学校への移行が開始された。この方向は、第9次5ヶ年計画(1971年~75年)の時期に急速に強められ、1972年のソ連邦共産党中央委員会及びソ連邦閣僚会議の決定『職業技術教育システムの一層の発展について』で具体的な方策が示され、1973年の「国民教育基本法」でも明確に位置付けられた。その急激な発展ぶりは表1.Ⅳに示される通りである。

〔技術学校〕は10年制学校卒業者を受け入れ、1年ないし2年の短期間に職業の技能資格を付与する教育施設である。正式には1966年から始まるところではあるが、それ以前から明確な位置付けなしに開設されていたという(1957年 434校 13万人の生徒)⁷⁾。その年にはロシア共和国で『技術学校についての規則』が定められ、内容の整備もはかられ高い教育を受けた有資格労働者の

表1. 各種 職業技術教育施設数及び生徒数⁶⁾

| | 中等職業技術学校 (СПТУ) | | 技術学校 (ТУ) | | 職業技術学校 (ПТУ) | | 夜間(交替)職業 技術教育施設 | |
|------|--------------------|-------------|------------------|--------------|-----------------|-------------|--------------------|-------------|
| | 学校数 | 生徒数 (千人) | 学校数 | 生徒数 (千人) | 学校数 | 生徒数 (千人) | 施設数 | 生徒数 (千人) |
| 1966 | | | 307 | 100 | | | | |
| 69 | 416 | 96 | | | | | 95 | |
| 70 | 615 | 180 | 364 | 210 | 3,897 | | 127 | |
| 76 | | | 835 | 492 | 1,871 | | | |
| 78 | 3,374 | 1,670 | 941 | 567 | 1,642 | 834 | 704 | 288 |
| 79 | 3,676 | 1,875 | 1,097 (1,241) | 652 (714) | 1,387 | 671 | 732 | 305 |
| 80 | 4,026 | 2,069 | | | 1,111 | 566 | 736 | |

1978年について

都市職業技術学校(中等を含む) 施設数 1,789

農村職業技術学校(") 1,681 715

要請の中で拡充が進んだ。

技術学校(ТУ)は独立した施設も多いが、中等ПТУあるいはПТУ内に特別なグループとして10年制学校卒業生を教える部分も含んでいる。⁸⁾第20番、第7番中等ПТУで聞いたТУについての説明はこの部分であった。なお、第7番中等ПТУでは、ラジオ、無線関係で2ヶ年のТУに60名、1ヶ年のТУに35人が在籍しているとのことであった。同じ施設で教育するという点で、8年卒の中等ПТУの生徒とТУの生徒の相違に関する質問には、技能や知識に差は見られないが、中等ПТУの生徒の方がどちらかと言うと責任感がある、と説明された。ТУの生徒には、既に中等教育修了したという安心感が働いていたといふものであった。

先の中等ПТУも職業技能資格とともに普通中等教育を与えるという点で、どう具体的に展開されるか興味があるところであるが、このТУも、普通中等教育の後に職業技能資格を与える場として、前者におとらず詳しい内容を知りたいところである。

[職業技術学校](ПТУ)は表1に見られるように、未だ2割程度残っている。どのような部分が残っているのかはつきりしない

がこの学校の生徒も中等教育を受けられるよう、夜間(交替)学校との提携がはかられているようである。⁹⁾しかし、この第1次5ヶ年計画(1981~85)の間に、全て中等ПТУに移行されるようである。¹⁰⁾

なお、中等ПТУの拡充の中での8年制卒業者進路の変化についても関心のあるところであるが、ハバロフスクに於いては、半分がПТУもしくはテクニクムに進むようになりその傾向が強まっているとのことである。具体的な数字を見る事ができないが、レニングラードでは、40%以上がПТУに進んでいるという。¹¹⁾一方、ハバロフスクでの今後の傾向をたずねた質問に対してドルギフさんから、就業年令制限の問題ともからみ、10年制度のТУが増加するのではないかという説明もあるので、一概に9~10年に進むものが少くなるとは言えないであろう(ただし、終りの懇談会では、同種の質問に対しドルギフさんの明確な回答がなかったことを付け加えておく)。

職業技術教育施設の教育内容は、ソ連邦職業技術教育国家委員会が全連邦共通に定めている(1978年頃の文献まで、閣僚会議の

文字が入っていたが、'80年以降のものには見当らない。何故かわからない。)この委員会がどのような経過で成立したかわからないが、1966年ソ連邦共産党中央委員会とソ連邦閣僚會議によって、《国民経済のための有資格労働者の養成における、ソ連邦閣僚會議職業技術教育国家委員会の役割を高めることについて》が決定されるなどして、国家委員会の機能が強化され、省庁、関係機関を統合しているようである。¹²⁾

職業技術教育施設での有資格労働者の養成職種は定期的に検討されているようである。1966年には、1,117の職業、1978年には1,407の職業という。¹³⁾しかしこれはいわゆる職種とは異なるようである。今回の視察で入手できた「現行プログラムのリスト」による職業の中には、例えば、「指物師(建築); 大工」というものもあり、近いものを見つめる傾向も見られる。ただ全体としては養成職業は細分化されている。

国家委員会の定めるプログラム類には、その職業にかかる「生産教授」(実習)と専

門知識に関する「教授プラン及びプログラム」と、職業を越えて共通する職業技術科目的「プログラム」がある。(普通教育科目のプログラムは、基本的には中等普通学校の9~10学年用が使用されるようである。その他国家委員会の承認を受けるものもある。¹⁵⁾)

この「教授プラン及びプログラム」が先きの養成職業と対応し(中には、いくつかの職業に共通したものもある)それぞれ、中等ΠTY, TY, ΠTY用に作成されている。職業の種類により、養成施設が限定されているものもある。また、同一のプログラムを別の施設で使用するものもある。

「現行プログラムのリスト」によれば、養成職業(プログラムの種別)は1400である。同じワクで細分化されているもの42を加えると計1442となる。共通プログラムは、86種である。これ等は9つの分野に分けられているが、職業の例と合わせて表2に紹介しておく。

教授プランが各教育施設でどのように組み立てられているか、表3, 4に示した。同一

表2. 養成職業の例と分野

第1集 国民経済の全ての部門にとって共通の労働者の職業

| No. | 職業の名前 | 承認された年と現行プログラムの番号 | | |
|-----|---|-------------------|------------------|-----------------|
| | | 中等ΠTY | TY | ΠTY |
| 1. | ヘリューム検査の検査員 (螢光と色彩管理の材料検査) | — | 1-1-T (1979) | — |
| 2. | 磁気検査の検査員 (超音波検査の検査員, レントゲン-ガンマ線検査の検査員) | — | 1-2-T (1979) | — |
| 3. | 測定実験室の実験助手 | — | 1-1-T (1975) | 1-3-Π (1980) |
| 4. | 金相学実験助手 | — | 1-2-T (1974) | 1-4-Π (1979) |
| 5. | 電気絶縁材料の実験助手 | — | 1-3-T (1975) | 1-5-Π (1981) |
| 17. | 計算機オペレーター | — | 1-17-T (1980) | — |

| | | | | |
|-----|-----------------------|------------------|----------------------|--------------------|
| 18. | 電子計算機オペレーター | — | 1-18-T (1979) | — |
| 19. | エレベーターの電気機械技手 | 1-19-C (1979) | 1-19-T (1980) | — |
| 20. | 電気設備サービスの電気技手 | — | 1-13-T (1976) | 1-13-P (1976) |
| 21. | 電気設備修理の電気技手 | — | 1-14-T-P (1975) | 1-14-T-P (1975) |
| 25. | 鋳型工 - 組立工 | — | 1-19-T (1975) | 1-19-P (1975) |
| 26. | 鋳造生産における材料と 作業の検査員 | — | 1-20-T (1976) | 1-20-P (1976) |
| 27. | 鋳型の検査員 | — | 1-21-T (1976) | 1-21-P (1977) |
| 28. | 木型の鋳型工 | 1-28-C (1978) | 1-22-T-P-2 (1975) | 1-22-P-1 (1975) |
| 29. | 金型の鋳型工 | 1-29-C (1978) | 1-23-T-P-2 (1977) | 1-23-P-1 (1977) |

職業数(細目)

| | | |
|-----|--|----------|
| 第1集 | 国民経済の全ての部門にとって共通の労働者の職業 | 161 |
| 第2集 | 地質調査, 石炭産業, 採鉱業, 石油産業, ガス産業 泥炭産業, 冶金産業, 化学工業, 製油及び石油化学 工業, 医療産業, 微生物学の職業 | 248 |
| 第3集 | 動力工業, 電気工学生産, 電子工学生産, 無線機器 及び有線通信機器生産の職業 | 112+(5) |
| 第4集 | 建設, 建設資材産業, 林業, 木材加工工業, セルロ ーズ-紙産業の職業 | 213+(2) |
| 第5集 | 輸送の職業 | 157 |
| 第6集 | 軽工業, 印刷業, 楽器生産の職業 | 199+(3) |
| 第7集 | 製肉業, 乳加工業, 食品産業, 魚業, 商業及び公共 食堂の職業 | 134+(32) |
| 第8集 | 住民の文化的生活サービス, 地域の産業(民族工芸) | |
| | 住宅-公営事業の職業 | 79 |
| 第9集 | 農業の職業 | 97 |

職業で三施設のものがなかったので、十分な比較はできないが、ワク組みはわかるであろう。中等P.T.Yについても第一回視察の報告にも詳しいので対比してほしい。表4で同一職業の共通「教授プランとプログラム」のT.YとP.T.Yを示した。これを見ると、専門科

目に関してはほぼ共通である。異なるのは時数のみで、表5に見られるように、「生産教授」のテーマのプランもほとんど共通である。プログラムにも区別なく示されているところを見ると、同一内容にあてる時間数で変化を与えるだけのようである。

表3. 中等 II T Y 教授プラン 指物師(建築); 大工 1981年 3-4級

| 科 目 | 一 学 期 | | | | 二 学 期 | | | | 三 学 期 | | | | 三 学 年 の 時 間 数 | |
|----------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|---------------------------------|-----|
| | I 期 | | II 期 | | I 期 | | II 期 | | I 期 | | II 期 | | | |
| | 9 1 1 1 15 15 15 15 29 29 29 29 20 20 20 20 | 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | 4 4 4 4 5 5 5 5 15 15 15 15 4 4 4 4 | 7 7 7 7 3 3 3 3 12 12 12 12 1 1 1 1 | 7 7 7 7 5 5 5 5 29 29 29 29 20 20 20 20 | 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 | 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | 3 3 3 3 4 4 4 4 15 15 15 15 3 3 3 3 | 4 4 4 4 4 4 4 4 29 29 29 29 27 27 27 27 | 7 7 7 7 8 8 8 8 30 30 30 30 10 10 10 10 | | |
| | 週 | | | | 週 | | | | 週 | | | | | |
| | 17 | 2 | 23 | 3 | 6 | 17 | 2 | 7 | 14 | 2 | 3 | 6 | 14 | |
| | 週時数 | | | | 週時数 | | | | 週時数 | | | | 週時数 | |
| | 17 | 2 | 23 | 3 | 6 | 17 | 2 | 7 | 14 | 2 | 3 | 6 | 14 | 週時数 |
| 職業技術科目 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1. 生産教授 | 6 | | 12 | 36 | | 486 | 12 | | 18 | | 36 | | 564 | 18 |
| 2. 専門技術学 | 4 | | 2 | - | | 114 | 3 | | 5 | 1 | - | | 100 | 2 |
| 3. 材料学 | 2 | | 1 | - | | 57 | 1 | | 2 | - | - | | 31 | - |
| 4. 建築製図 | 3 | 冬 | 2 | - | 夏 | 97 | - | 冬 | - | - | - | 夏 | - | - |
| 5. 労働と生産の経済の基礎 | - | - | - | - | | - | - | - | - | 試 | - | | - | 97 |
| 小計 | 15 | | 17 | 36 | | 754 | 16 | | 7 | 19 | 36 | | 695 | 22 |
| 普通教育科目 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1. ロシア語と文学 | 2 | 休 | 2 | - | 休 | 80 | 2 | 休 | 4 | 2 | - | 休 | 90 | 2 |
| 2. 数学 | 4 | | 3 | - | | 137 | 3 | | 5 | 3 | - | | 128 | 2 |
| 3. 歴史 | 2 | | 3 | - | | 103 | 3 | | 4 | 4 | - | | 135 | - |
| 4. 社会学 | - | | - | - | | - | - | | - | - | - | | - | 71 |
| 5. 地理学 | - | | - | - | | - | - | | - | - | 試験 | - | - | 54 |
| 6. 生物学 | - | 暇 | - | - | 暇 | - | - | 暇 | - | - | - | 暇 | - | 64 |
| 7. 物理学と天文学 | 4 | | 3 | - | | 137 | 4 | | 6 | 4 | - | | 166 | 1 |
| 8. 化学 | 3 | | 2 | - | | 97 | 2 | | 5 | 2 | - | | 97 | - |
| 9. 外国語 | 2 | | 2 | - | | 80 | 2 | | - | - | - | | 34 | - |
| 小計 | 17 | | 15 | | | 634 | 16 | | 24 | 15 | | | 650 | 12 |
| 1. 美学の基礎 | 1 | | 1 | - | | 40 | - | | - | - | - | | - | 40 |
| 2. 初歩の軍事準備教育 | 1 | | 1 | - | | 40 | 2 | | 3 | - | - | | 55 | 1 |
| 3. 体育文化相談試験 | 2 | | 2 | - | | 80 | 2 | | 2 | 2 | - | | 76 | 1 |
| 総計 | 36 | | 36 | 36 | | 1548 | 36 | | 36 | 36 | 36 | | 1524 | 36 |

試験 二学年 地理学、歴史、物理学、化学

三学年 専門技術学、ロシア語と文学、代数学と初等解析、社会学

<注> 企業における生産教授の履習の際には実際的課業及び理論的課業の順に
行うことは免除される。

表4. T Y, P T Y 教授プラン

ブルドーザー運転手; スクレーパー運転手

1981年 4-5級

| 科 目 | 技術学校(1年) | | | | | 職業技術学校(2年) | | | | | | | | 学 科 課 程 の 総 時 数 | | | | | |
|----------------|-------------------------|------------------------|-----------------------|------------------------|--------------------------------------|------------|----|-----|----|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|------|--------------------------------------|--|--|--|--|--|
| | 半期 | | | | 学 科 課 程 の 總 時 数 | 一学年 | | 二学年 | | 二 学 年 の 合 計 時 数 | 二 学 年 の 合 計 時 数 | 二 学 年 の 合 計 時 数 | | | | | | | |
| | I | | II | | | 半期 | | 半期 | | | | | | | | | | | |
| | 9 1 1 1 15 | 1 1 1 1 21 | 3 3 3 3 3 | 4 3 3 3 3 | | I | | I | | | | | | | | | | | |
| | 12 1 1 1 25 | 1 1 1 1 2 | 3 3 3 3 2 | 4 4 4 4 23 | | II | | II | | | | | | | | | | | |
| | 週 | | | | | 週 | | 週 | | | | | | | | | | | |
| | 17 | 2 | 10 | 1 | 16 | 17 | 22 | 3 | 16 | 26 | 16 | 26 | 16 | | | | | | |
| | 週時数 | | | | | 週時数 | | 週時数 | | 週時数 | | 週時数 | | | | | | | |
| 1. 生産教授 | 12 | | 21 | | 41 | 1070 | 18 | 18 | 36 | 810 | 81 | 41 | 1354 | 2164 | | | | | |
| 2. 機械の構造と使用 | 8 | | 7 | | | 210 | 3 | 3 | | 117 | 4 | | 66 | 183 | | | | | |
| 3. 作業設備と作業の技術学 | 2 | 冬 | 2 | 試 | - | 54 | - | 1 | - | 22 | 3 | - | 48 | 70 | | | | | |
| 4. 仕上仕事の基礎 | 2 | 休 | 2 | | - | 34 | 2 | - | - | 34 | - | - | - | 34 | | | | | |
| 5. 道路運転の規則 | 2 | 休 | 2 | | - | 54 | - | 1 | - | 22 | 2 | - | 32 | 54 | | | | | |
| 6. 材料学 | 2 | 冬 | 2 | 試験 | - | 54 | 2 | 2 | - | 78 | - | - | - | 78 | | | | | |
| 7. 図面の読み | 2 | | - | | - | 34 | | | | | | | | | | | | | |
| 7'. 電気技術 | | | | | | | 2 | 2 | - | 78 | - | - | - | 78 | | | | | |
| 8. 技術製図 | | | | | | | 2 | 2 | - | 78 | - | - | - | 78 | | | | | |
| 8. 経済学 | 3 | | 2 | | - | 69 | | | | | | | | | | | | | |
| 9. 労働と生産の経済の基礎 | | | | | | | - | - | - | - | 2 | - | 30 | 30 | | | | | |
| 10. 社会学 | | | | | | | 2 | 2 | - | 78 | 2 | - | 32 | 110 | | | | | |
| 9,11' 法学の基礎 | 1 | | 1 | | - | 25 | 1 | - | - | 25 | - | - | - | 25 | | | | | |
| 12' 初歩の軍事準備教育 | | | | | | | 2 | 3 | - | 92 | 3 | - | 48 | 140 | | | | | |
| 10,13' 体育相談試験 | 2 | | 2 | | - | 54 | 2 | 2 | - | 78 | 2 | - | 32 | 110 | | | | | |
| | | | | | | 40 | | | | | | | | 75 | | | | | |
| | | | | | | 12 | | | | 12 | | | 12 | 24 | | | | | |
| 合 計 | 36 | | 39 | | 41 | 1710 | 36 | 36 | 36 | 1524 | 36 | 41 | 1654 | 3253 | | | | | |
| 美 術 | | | | | | 50 | | | | | | | | 60 | | | | | |
| 総 計 | | | | | | 1760 | | | | | | | | 3313 | | | | | |

試験は、[T Y] 科目“機械の構造と使用”及び“経済学”に関して行われる。

〔 P T Y 〕 第一学年 機械の構造と使用と材料学に関して

第二学年 機械の構造と使用と社会学に関して

<注> 教授プランを越えて、20時間が、生産教授の日に個々の生徒によって、個別に行われる、機械の運転の練習にあてがわれる。

表5. 生産教授のテーマのプラン

| テ　ー　マ | T Y | П T Y | | T Y | П T Y | |
|-------------------------------|-----|-------|-------------------------------------|-----|-----------|--|
| <u>I 教育製作場での教授</u> | | | | | | |
| 1. 導入の課業 | 2 | 2 | 18. エンジンの燃料補給システム | 9 | 54 | |
| 2. 教育製作場における労働の危害予防と防火 | 4 | 4 | 19. 始動モーター、始動装置、伝達機構 | 12 | 36 | |
| 3. 基地企業の見学(建設) | 6 | 6 | 20. 後部車軸、最終駆動装置、トラクターの歩行部分 | 6 | * 72 | |
| 4. けがき | 6 | 6 | 21. 電源、電気設備、スター・リレー調節器 | 15 | 36 | |
| 5. 切る、修正及び曲げ | 6 | 18 | 22. 油圧システム、駆動ウィンチ、ブルドーザー及び、スクレーバー設備 | 31 | ** 72 | |
| 6. 切断 | 6 | 12 | | | | |
| 7. やすりがけ | 6 | 18 | <u>II 生産現場における教授</u> | | | |
| 8. 穴あけ、座ぐり及び展開 | 12 | 24 | 23. 建築物の視察 | 8 | 6 | |
| 9. 総合作業I | 30 | 42 | 24. 索連結装置(及び油圧装置)をもつブルドーザー作業 | 56 | 102 | |
| 10. のこぎりびきと接合 | 12 | 18 | 25. 索連結装置(及び油圧装置)をもつスクレーバー作業 | 42 | 108 | |
| 11. ねじ表面の加工 | 12 | 18 | 26. ブルドーザーの管理、スクレーバーと複合した作業の管理 | 21 | * 72 | |
| 12. 非分解結合の遂行 | 12 | 24 | 27. 機械の技術的サービス | 20 | 82 | |
| 13. きさげ削りとすり合せ | 12 | 24 | 28. ブルドーザー、スクレーバーの修理 | 62 | 205 | |
| 14. 総合作業II | 30 | 78 | 29. 定員内の作業場における卒業前の生産実習 | 533 | 738 | |
| 15. 3~4級の仕上げ作業の遂行 | 36 | 144 | 卒業技能資格試験 | 41 | 41 | |
| 実技試験 | 12 | 12 | | | | |
| 16. シリンダー・クラシク機構、弁の開閉機構及び減圧機構 | 12 | 54 | 合　　計 | | 1070 2164 | |
| 17. エンジンの冷却と潤滑システム | 9 | 36 | | | | |

*他の内容を含む **実技試験12時間を含む (対照の関係で略した)

現在の「教授プランとプログラム」は、1977年8月のソ連邦共産党中央委員会及びソ連邦閣僚会議決定『職業技術教育システムの生徒の教授及び訓育過程の一層の向上について』によって改善されたものである。¹⁶⁾しかし、その決定は手に入れられず、対比すべき教授プランもないために、改善の内容を具体的に知ることはできなかった。資料3)に紹

介されているが明確にはならなかった。

各「教授プランとプログラム」には、取得技能資格等級とその内容が示されている。等級は職業によって異なるが、入手した教授プランは、3級~5級の範囲である。

なお各々の「教授プランとプログラム」の解説の最後に「教授過程の総合的な保障のために必要な、及び、生徒の教授と訓育の質の

向上を促進する、この教授プログラムの改善に関する批評と意見、教育の方法と手段の研究と定着に関する提案を、職業の番号の指示と一緒に送ることを求める」として「青年の職業技術教育の全ソ科学教授方法学センター」の住所、電話番号が明記されている。¹⁷⁾

教授プランやプログラムが整備され、細かく時数も定められていると、教育条件を整える大きな努力を知ると同時に、他方で上からの方的な教育となる危惧を感じるが、この但し書きにより現場の意見も広くとり入れる筋道も明確にされていることがわかる。

以上、職業技術教育の構成と内容を見てきたが、紙数の関係、また資料の関係で全体的にふれることができなかつた。視察の中で知り得たことを感想的に挙げるなら、職業教育を行う教育施設がこれ程に手厚く育てられていることにまず目をひかれる。日本の職業訓練の場にいる者にとって、その違いに驚きさえ感じる。生徒の進路の問題を深く聞くことはできなかつたが、自分の選択で多くの生徒が職業技術学校に進んでいるという（統計表をもとにした概算では約3割の8年制卒業者が進んでいるようである）ことも、当然のことながら日本との違いを感じる。自分の職業を選択できることに職業技術教育、労働教育の底辺の広がりを知ることができる（職業指導が近年とくに強化されているということであるが）。左官、タイル工の養成で、先生

も生徒もほとんど女性であったことなどは、4~8学年で労働教育の別学が行われていること（十年制学校の項参照）も考慮に入れる、そのことをよく示していると言える。

ソビエトの職業技術教育で重要な柱は、企業との連携であろう。中には企業が建てた学校もある（以前の工場学校はその形であろう）。極めて緊密な関係を保ち、生産教授（実習）¹⁸⁾の6割（中等ΠΤΥの場合、ΤΥでは7割のものもある）を企業等の生産現場で実習を行う。ΠΤΥでは、総時数の4割近くが生産現場の実習であるから（中等ΠΤΥで2割5分）日本で考えるなら、企業内訓練が頭にうかぶところである。ちなみに職につく卒業生は100%基地企業に就職しているという（第20中等ΠΤΥでの話）。ここに職業技術教育施設の本質があると言えるだろう。中等ΠΤΥとなり普通教育科目の増加していくことによって、この点でどのような変化が出ているか知りたいところである。このように考えていくと、今回の視察でも、企業などの生産現場での実習の具体的な姿、教育の方法を聞かず終らせてきたことに気付く。我々の頭の中が教育施設での実習から仲々抜け出せず、生産現場での実習と聞いても、その量的な重さ、質的な違いをすぐには感じられずに聞きすぎしてきたと言えるだろう。實に残念なことである。

最後に、養成職種に関してであるが、先きに見たように、1400と非常に細分化されている。このように細分化されるのは上記の生産現場での実習の量を考えてみるとうなづける所である。この実習は単なる体験的な実習ではなくその職業を行うのである——従つて、規定に従つた賃金が支払われる——となると、生産現場での実習を軸とした職業技術教育では、その技術習得の問題も考慮に入れるなら、巾広い職業を身につけることは出でこないであろう。

この点で、中等ΠΤΥへの移行、ΤΥの拡



写真2 「左官」の実習

充は、変化の方向を示していると言えるだろう。即ち前者は中等教育にもウェイトを置くことにより、生産現場での実習中心から変化していくのではないだろうか。後者は既に中等教育を受けていることから、相応の広がりを持った理解が可能となる。従って「労働者の養成の1400の職業から、中等ПТУにおいて、926まで行われ、技術学校において—1297までの職業が行われる。特に注意を向けるべきことは、その中の30%が—これは結合された、あるいは巾広い職業である。¹⁹⁾(傍点筆者)」となっているのである。このように進行しているのは当然のことながら、科学—技術の進歩に対応してであろう。

今回の視察は多くの施設を見ることができ資料も貴重なものを手に入れることができ、職業技術教育の現状を知る上で重要なものであった。しかし、二回目にもかかわらず、十分な事前研究をせずにその場に望んだため、帰国後あらためて勉強することとなり、新たな問題が湧き出てくることとなつた。問題意識が生じた、というだけでも意味のある視察ということにもなるが、より本格的に研究し、文献で不明なところを正すようにしていきたいものである。

<注>

- 1) 現地の通訳では“管轄企業”と訳されていたが、若干そぐわないようなので、直訳的に示すこととした。なお原文は(ФАВОВОЕ ПРЕДПРИЯТИЕ)
- 2) 『СПРАВОЧНИК ДЛЯ ПОСТУПАЮЩИХ В ГОРОДСКИЕ ПРОФЕССИОНАЛЬНО-ТЕХНИЧЕСКИЕ УЧЕБНЫЕ ЗАВЕДЕНИЯ』(都市職業技術教育施設入学案内)1982年164, 165頁による。通訳を介した説明では、№31, ПТУ—指物、大工、ベンキ、左官、石工、鉄筋工、電気溶接工。№20中等ПТУ—総合据付、仕上-組立工。№7中等ПТУ—電気関係、ラジオ、無線。であったが、上記資料が入手できたので、

両者を示した。

- 3) 『ОЧЕРКИ ИСТОРИИ-ПРОФЕССИОНАЛЬНО-ТЕХНИЧЕСКОГО ОБРАЗОВАНИЯ В СССР』(歴史の概要—ソ連邦における職業技術教育)1981年
- 4) 柴田、川野辺『資料ソビエト教育学』所収 606頁
- 5) 『НАРОДНОЕ ХОЗЯЙСТВО СССР В 1977 Г』(国民経済—統計集)395頁及び前掲書3) 270頁より作成
- 6) 1978年—前掲書5) 395頁, 1979年—『УРОВЕНЬ ОБРАЗОВАНИЯ НАСЕЛЕНИЯ СССР』1981年 110頁。
他は前掲書3) 286~292頁による。
- 7) 前掲書3) 290頁
- 8) 前掲書2) 6頁
- 9) 前掲書3) 291頁 2) 12頁
- 10) 前掲書3) 291頁
- 11) 前掲書3) 274頁
- 12) 前掲書3) 267頁
- 13) 前掲書3) 272頁
- 14) 『СПИСОК ДЕЙСТВУЮЩИХ ПРОГРАММ-НА 1981/82 УЧЕБНЫЙ ГОД (ЧАСТЬ I и II)』1981年。作成は、ソ連邦職業技校国家委員会、青年の職業技術教育の全ソ連邦科学—教授方法学センター。
- 15) 『УЧЕБНЫЕ ПЛАНЫ-СБОРНИК №8』(教授プラン—第8集……第1回視察の折りに入手したもの『技術教育研究』18号24頁参照)5頁
- 16) 前掲書3) 304頁
- 17) 『УЧЕБНЫЙ ПЛАН И ПРОГРАММЫ-ДЛЯ ПОДГОТОВКИ КВАЛИФИЦИРОВАННЫХ РАБОЧИХ В СРЕДНИХ ПРОФЕССИОНАЛЬНО-ТЕХНИЧЕСКИХ УЧИЛИЩАХ-ПРОФЕССИЯ … СТОЛЯР(СТРОИТЕЛЬНЫЙ); ПЛОТНИК』(教授プランとプログラム—中等職業技術学校における、有資格者養成のための—職業…指物師(建築); 大工) 1981年の場合は5頁(なお作成は12)と同じ)

- 18) これは、表4のブルドーザー運転手；スクレーパー運転手の場合。手もとにある「教授プランとプログラム」を見ると企業や生産現場での教授の生産教授に対する比率は次のようになっている（職業名を正確に示すと繁雑なきらいもあるが、入手プログラムのリストの意味で書き上げる）
- ①煉瓦積工、鉄鋼構造及び鉄筋コンクリート構造組立の組立工
〔3年〕 $1704/2040 = 83.5\%$
- ②指物師（建築）；大工
〔3年〕 $1662/2040 = 81.5\%$
- ③ブルドーザー運転手；スクレーパー運転手
〔2年〕 $1354/2164 = 62.6\%$
〔1年〕 $783/1070 = 73.2\%$
- ④自動車クレーン運転手
〔3年〕 $1082/1938 = 55.8\%$
- ⑤照明及び照明網の電気組立工、動力網及び電気設備の組立工
〔3年〕 $1260/2040 = 61.8\%$
- ⑥電装品組立工、附属品及び車体の電気溶接工
〔3年〕 $1954/2158 = 90.5\%$
- ⑦ラジオテレビジョン器具のサービスと修理に関する無線機械技術者；同（テレビ受信アンテナの有資格無線技師を伴う）
- 〔2年〕 $1230/2270 = 54.2\%$
- ⑧縫製工（紳士用外套），縫製工（婦人用外套）〔3年〕 $504/2040 = 24.7\%$
- ⑨縫製工（婦人薄物服）；縫製工（婦人薄物服及び紳士用ワイシャツ）
〔3年〕 $504/204 = 24.7\%$
- （但し、時期で区切ったので、最後の卒業資格試験40時間前後を含んでいる）
- なお、前掲書15) 4頁によれば生産実習は14週以上（504時間にあたる）としている。また、ペールキン『ソ連の職業技術教育』1969年90頁に「9週間というものは企業での最小実習期間であり、圧倒的大部分の職種では生産教育全期間の半分以上が企業実習にあてられている」とある。
- このように細かく見ていくと職業による相違が大きいが、教育に必要な設備が簡単なものを除き、かなりの割合が生産現場に於ける教授にあてられていることがわかる（もっとも、手元にあるプログラム類に関してではあるが…）。
- 19) 前掲書 3) 304頁
(職業訓練大学校)

「技術教育研究」定期購読ご案内

- ☆ 技術教育研究会は、研究成果を会員外にもひろめるために雑誌『技術教育研究』を年2回（今のところ）刊行しています。
- ☆ 会員には、年8回発行の会報『技術と教育』をお送りしますが、雑誌『技術教育研究』は会費とは別会計で、実費にて配布します。
- ☆ 『技術教育研究』を継続して講読される方のために予約講読の制度を設けています。千円以上の予約金をお納めいただければ、発行のたびに雑誌をお送りします。予約金が切れたたらお知らせします。
- ☆ 会員はもちろん、会員以外の方どなたでも予約講読できます。申込は事務局へ。